

No.657 (改題617号)
2024年
12月11日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑

83 物語

姫路市の南に位置する姫路港は、古くは万葉の時代から播磨地方の玄関として大きな役割を果たしてきた。現在でも家島や小豆島へのフェリーの乗り場となっているほ

か、播磨工業地帯の中核港湾として、鉄鋼、化学、電機、ガス等のエネルギー産業を支えている。江戸時代は飾磨津と呼ばれ、姫路藩御船役所を置き、水軍の御船手組が常駐していた。1846年(弘化3年)には、藤田維昌が濠洲を築造し、巨大な人工の港が完成した。

1863年(文久3年)には、幕府の命により姫路藩が異国の船の来襲に備えて砲台を造った。勝海舟が摂津に派遣され、西宮、今津などの砲台を建造した時期と同時期である。「飾磨町志」によると、濠洲の工事の際に海底から掘り上げて南の海岸に積み上げていた大量の土砂を利用して砲台を築造し、大砲4門(狹野流2門、西洋流2門)を配備した。同書および「飾磨郡誌」に収録されている当時の砲手、増田良蔵の談によれば、砲手は姫路藩士で、数人が交



替で常駐し、大砲の発射訓練も行ったという。現在は、方形の船溜りだけが旧状を保っている。(森山)

【メモ】山陽電鉄・飾磨駅から南へ徒歩25分。神戸バス飾磨港行では終点下車すぐ。姫路港湾合同庁舎敷地内

飾磨砲台跡の碑

(姫路市飾磨区須加)

25参院選へ 準備本格化
かい正康さん兵庫入り

11・25
11・30



芦屋の市民集会で参加者に決意を述べる=11月30日、芦屋市

先の大衆院選の敗北で自公は少数与党になり、国会でも少数与党ゆえの厳しい政権運営が始まっている。自公政権をさらに追い詰め、政治を変えていく大きなチャンスが来夏の参議院選挙だ。新社会党は、この参院選に社民党・比例区からかい正康さん(新社会党市民運動委員長)が立候補して闘うことを4月に決定し、準備活動を進めてきたが、総選挙も終わりに、かい正康さんの活動にさらに力が入る。かい正康さんは11月25日から30日まで兵庫県に入り、神戸市内をはじめ但馬、丹波地方にも出向き、党員との交流や支持者回り、街頭宣伝など、精力的に動き回った。

芦屋では「共に闘う」市民集会

かい正康さんの今回の兵庫滞在の最後の日程が、11月30日に芦屋市で開かれた「かい正康とともに市民集会」。参加した約30人を前に、かい正康さんは「自分には政党の大小は関係ない。選挙に勝つというところしか考えていない。そのためには皆さんから言われたことは何でもする」と、改めて勝利への決意を熱く語った。この決意を受け、「かい

正康とともに」、各自が現場で闘う」という立場から、山口みさえ芦屋市議をはじめ、県職労、ユニオンあしや、芦屋市

神戸でも支持者へのあいさつや街宣行動

かい正康さんの今回の兵庫での最初の行動は11月25日。党本部女性委員会であいさつの中のち、全港湾神戸支部山陽バス分会を訪ね、バスの運転手らと交連関係の問題を中心に交流を行った。



(上)職場を訪問して労働者と交流。11月26日、(下)トラック運転手と会話するかい正康さん。27日



みには全港湾神戸支部義勇海運分会を訪ね、組合員らと交流の場を持ち、激励を受けた。

翌27日は東灘区入り。岡崎宏美委員長も同行して支持者宅を訪ねると

たマイク・アピールを行った。なかにはトラックのドアを開け、直にかい正康さんの話を聞いてくれる運転手もいた。

但馬では350キロの行程を走破

28日からは初めて但馬地方を訪問。地元の岡田一雄・党但馬支部委員長の家内で、党員・党友、機関紙読者、但馬ユニオン組合員らの職場や自宅20か所を訪問。事前の準備も万全で訪問先の全員

と会え、かい正康サポートーズの会をつくるべく支持の拡大要請を行った。途中、大きなスピーカーの前ではマイクを使った街頭宣伝行動も組み入れた。但馬では西は鳥取県境の浜坂まで足をのぼし、



スーパー前で街頭演説

元神戸市会議員、新社会党灘総支部顧問

井上 力さん逝去

神戸市会議員を4期務め、新社会党灘総支部顧問で、ろっこう医療生活協同組合監事の井上力さんが11月28日朝、急逝した。75歳だった。

井上さんは、2020年9月に大腸にガンが発見され、その後は病と闘

男市議の後継者として1986年、神戸市議選(補選)に初挑戦。翌年4月に初当選し、新社会党の結成後も2007年まで神戸市議を4期務めた。

井上さんは1973年、神戸大学の学生から日本社会党灘総支部の専従職員に就任。書記長を長く務め、亡くなった平田辰

また、地域ではろっこう医療生協の設立に関わり、監事や専務理事を歴任、現在も監事だった。

葬儀は30日、家族葬で執り行われ、静かに見送られた。来年には徳富会が開かれる予定。



井上力さん

水脈

谷川俊太郎さんが亡くなり、悼む声とともに、言葉の力を見直そうという気運

が盛り上がりつつある。心が洗われる、元気づく、つながりが蘇る等々。谷川さんのような詩人が、それを掘り起こし、植えつけ、花を咲かせる。人が生きるためには大切なことだ。ところが、最近いやな響きの言葉を耳にする。「ひもづく」だ。浅学の身にはあまり聞かない言葉だった。辞書にもない。「ひも」と言えば、ものを括ったり、束ねたりするものである。いやな条件がつくことを「ひも」がつくという。相方を働かせて、自身はぐうたらに暮らす男を「ひも」という。「ひもづく」という言葉を頻りに耳にするようになったのは、厚労省が12月2日から健康保険証を廃止すると言い出してからのことのように思われる。行政的な事務用語としてなのか。血も涙も暖かさも感じられない。せめて「結びつく」「ぐらひ」の言葉を使う配慮や熱はなかったか。同じ言葉でも、高齢者にはそれなりの響きをもって受けとられることを配慮できないのか。行政から潤いがなくなっていく。単純に高齢者はデジタルに弱いと思いがちだが、彼らに思っているかもしれない。汗で、今日の日本を築きあげてきたのだ。人間に大切なものは何だ。

長野で総会と視察交流

全国農業問題連絡会



20回目を迎えた全国農業問題連絡会(秋鹿好生会長)の総会を兼ねた視察交流会が11月15、16日の2日間、長野県生坂村で行われた。

視察先の村営の農業公社では、農地の賃借や農作業受託などの農地保全事業を始め、農業技術研修や特産物開発事業、都市住民との交流、高齢

者対策などの実情について学んだ。この中で村が力を入れているのが新規就農制度で、3年間の研修期間中は15万円月の生活保障や住宅(家賃2万円)の提供、農地や農業機械の無料貸し出しなど厚いサポートによって、研修後の定着率は全国でもトップクラスと言われている。

新規就農者は主にブドウなど果樹栽培に取り組んでいるが、整然として広がる果樹園に就農者の充実した取り組みが垣間見える。また、周辺の水田には1枚の放棄田も見当たらず、参加者から感嘆の声が上がった。「この村に農業再建のヒントがあるのでは」との感想が出された。

総会では、この夏、高温障害やインバウンドなどによるコメ不足によって、「令和の米騒動」に発展し業者による集荷競争が激化した。政府は自給率引き上げの目標は示しても具体策は示していない」との指摘があった。また、凶作や有事の際に農家などに増産を指示できる罰則付きの「食料供給困難事態法」が6月に制定されたことへの批判の声があがった。

この状況踏まえ、農家への「直接所得補償制度」を充実させ、有機農業や家族農業の育成や戸別所得補償制度の復活をはかる、②新規就農支援金の制度の拡充による後継者の育成、③農業者の自主的組織である農協の発展と民主化—などの方針が確認された。

また、25年は島根県杵木村で開催することを確認したほか、会の名称変更を検討することになった。(鍋島)

来年1月25日、「2025新春のついで」(新春講演会)を長田区文化センター1・大会議室で開く。

2025新春のついで(新春講演会)

- ・2025年1月25日(土) 14時
- ・講演「2025年の政治を展望」(仮称) 石河康国さん(前新社会党副書記長)
- ・落語「マイナ保険証」など

を追求する」と明記

- ・12月 装備移転3原則と運用指針を改定。外国企業の許可を得て国内で製造するライセンス生産品の輸出を解禁
- ・24年3月 装備移転3原則の運用指針を改定。次期戦闘機の第3国輸出を解禁

(東京新聞より)

■自民党・小野寺政調会長「憲法9条2項を変えざるべきだ」

自民党の小野寺政調会長は11月24日、東京都内で開かれた改憲推進派の集会で「この国を守るために自衛隊明記はもちろん、戦力不保持を定めた9条2項をしっかりと変えていく必要がある」と強調した。

自民、公明、維新、国民民主などの改憲勢力は10月の総選挙で、改憲発議に必要な3分の2議席を割り込んだため、現状のままでは国会発議が不可能になっている。

自民党は9月の会議で9条1項と2項を維持したまま、「9条の2」を新設して自衛隊を明記する改憲案を決定している。

一方、石破首相(総裁)は、幹事長時代にまとめた2項削除の改憲草案を支持している。(中)

新社会党県本部 2025年1月25日に 新春講演会

政府、軍需産業戦略策定へ 基盤強化と武器輸出推進

東京新聞によれば、政府は「国家防衛産業戦略」を策定する作業を始めたという。防衛産業(軍需産業)の強化と装備品(武器)の輸出促進を明記している国家安全保障戦略を踏まえ、中長期目標を定める。

2022年に策定された国家安全保障戦略では、防衛産業を「防衛力そのもの」と重視し、装備品輸出も「望ましい安全保障の創出に重要」と位置づけし、これに沿って輸出ルールの緩和を進めている。

有識者会議を設置し、①維持・強化すべき産業や技術、②強靱なサプライチェーン(供給網)構築、③望ましい調達制度、④機微技術の保護、⑤人材確保などの論点整理を行う。

昨年の通常国会で成立した「防衛産業強化法」は、企業撤退が進む防衛産業を維持するため、製造工程の効率化や海外輸出などの支援を列挙。それでも事業継続が難しい

場合、企業の製造施設を国が取得、保有できる「国有化」を規定。管理運営は民間委託するが、維持管理費は国が負担する。

防衛産業強化法に基づくと、自衛隊の不可欠な装備品として武器、弾薬、車両、艦船、航空機、レーダー、誘導武器、情報システム、各種部品などをあげている。

防衛力強化、武器輸出の流れを止めよう。

【別表】日本の防衛産業を巡る主な動き

- ・2014年4月 安倍内閣が防衛装備品の禁輸政策を転換する防衛装備移転(武器輸出)3原則を閣議決定
- ・22年12月 岸田内閣がイギリス、イタリアと次期戦闘機の共同開発に合意
- ・国家安全保障戦略を閣議決定。防衛産業の強化と装備品の輸出推進を明記
- ・23年6月 防衛産業の支援を目的とする生産基盤強化法が成立
- ・10月 防衛省が生産基盤強化法に基づく基本方針を策定。装備品の国産

知事選に見るSNSの功罪

「民意」の背景にあるのは…

義の名で自ら民主主義を壊していく行為ではないか。

因みに、今回の知事選前に、立花氏はN党から10人を立候補させると表明したために、最終的には7人の立候補者に対しポスター公開掲示板で最大28の枠がつけられるということでもない税金の無駄使いも起きた。

さらに重要な問題のひとつは、今回の選挙結果に大きな作用を果たしたSNSや動画サイトなどを利用した選挙活動をめぐって、一つの資料として、投票に際して何を参考にしたかというNHKの出口調査では、テレビと新聞がそれぞれ24%なのに対し、SNS

S・動画配信サイトを駆使して、デマや誹謗、個人のプライバシーの暴露を含む大量の煽動的な情報を発信して斎藤氏を擁護し、支援するネット世論の形成に大きな役割を果たした。あるSNS調査会社の報告では、立花氏は知事選告示日から

投票日前日までに自身のユーチューブチャンネルで100本以上の斎藤氏支援の動画を投稿し、その総再生数は計1500万回弱に達したとされている。

また、彼は街頭で、斎藤氏とのセットを意識した行動(斎藤氏の街頭演説と同じ場所、斎藤氏の演説の直前か直後に自身も演説)を展開し、斎藤陣営の完全な援軍になりきった。だが、こうした手法が許されるならば、資金にモノを言わせ、特定の候補を勝たせるために何人も候補者を擁立することができる。これは公平な選挙と言えるだろうか。民主主義

S・動画サイトは30%と前者を上回った。そして、このうちの70%以上が斎藤氏に投票した。この傾向は年代によって差があり、新聞を読まずテレビもあまり見ないという若い世代ではこの傾向はさらに顕著で、斎藤氏と稲村氏の得票結果はこのことに対応している。

もちろん、氏の政策や知事としての実績を評価する支持層がそれなりにあったことは事実だが、選挙戦の様相を大きく変え、投票率を前回よりも14.55%上回るほどにおし上げていったのは、間違いなくSNSや動画投稿の効果だ。街頭演説にかけつけた斎藤支持者

たちの声からも、これらによるメッセージの大規模な拡散の影響が証明されている。今後、こうした作戦はさらに拡大するだろう。

筆者の目にも、斎藤氏の猛追・逆転を実現させた急速な支持の拡大は、明らかに熱狂的なムーブメントが起ころ、それがうねりとなって大衆を動かす流れのようになったことについてつくられたもののように映った。街頭演説の聴衆は加速度的に増え、最終盤では姫路や神戸で3千人にもほなるなど、かつてない選挙戦の光景が生まれた。

そこで問題なのは、なぜこうしたSNSに影響されて世論が動くのかということである。

「私的主張」

その背景に何があるのかという問題でもある。今回、デマや誹謗中傷が飛び交い、その真偽を確かめるためにネットを利用した人も多かった。その際、派生的だがネット特有の現象である「フィルターバブル」も無視できない。自分の意見に近い情報ばかりが表示され、偏った情報に基づく判断が形成されやすい。

さらに、今回の選挙戦で斎藤陣営側のSNSの中では、デマをも含んで一つのストーリーとシナリオが意識的につくられていた。選挙期間中でもSNSには選挙法上の規制がない(このことについての検討と対策は今後不可欠になっている)。描かれたストーリーは「斎藤氏のパワハラ等の疑惑は捏造されたもので、知事追い落としの陰謀だった」というものだ。だから、「斎藤氏は悪くなく、『改革』を進めるいい人だ。応援しなければ」の声が少なからぬ人々の心を動かし、「善意」による拡散も波及的に行われていった。

さらに注目すべきなのは、それが、『既得権益勢力』に立ち向かう『改革派』という構図にまでスライドして演出されていったことだ。一部では、既存のマスコミ、議会、百条委員会までもが批判・不信の対象となった。こうした気運を受け入れ、広がった今日的な「民意」。そのなかにポピュリズム的な、ある意味、ファシズムへと傾きかねない危険な土壌が形成されつつあるのではという危惧は言い過ぎだろうか。さらに掘り下げて検討してみる必要がある。

上野恵司(『新社会兵庫』編集長)

また、25年は島根県杵木村で開催することを確認したほか、会の名称変更を検討することになった。(鍋島)

新社会党兵庫県本部は

来年1月25日、「2025新春のついで」(新春講演会)を長田区文化センター1・大会議室で開く。

2025新春のついで(新春講演会)

- ・2025年1月25日(土) 14時
- ・講演「2025年の政治を展望」(仮称) 石河康国さん(前新社会党副書記長)
- ・落語「マイナ保険証」など

を追求する」と明記

- ・12月 装備移転3原則と運用指針を改定。外国企業の許可を得て国内で製造するライセンス生産品の輸出を解禁
- ・24年3月 装備移転3原則の運用指針を改定。次期戦闘機の第3国輸出を解禁

(東京新聞より)

■自民党・小野寺政調会長「憲法9条2項を変えざるべきだ」

自民党の小野寺政調会長は11月24日、東京都内で開かれた改憲推進派の集会で「この国を守るために自衛隊明記はもちろん、戦力不保持を定めた9条2項をしっかりと変えていく必要がある」と強調した。

自民、公明、維新、国民民主などの改憲勢力は10月の総選挙で、改憲発議に必要な3分の2議席を割り込んだため、現状のままでは国会発議が不可能になっている。

自民党は9月の会議で9条1項と2項を維持したまま、「9条の2」を新設して自衛隊を明記する改憲案を決定している。

一方、石破首相(総裁)は、幹事長時代にまとめた2項削除の改憲草案を支持している。(中)

市民と野党の長田共同アクションが開催

戦争ではなく平和の準備を

市民と野党の長田共同アクションが11月24日、講師に青井美帆さん(学習院大学大学院教授)を招き、「戦争の準備ではなく平和の準備を」をテーマにした講演会を神戸市長田区内で開いた。

青井さんは講演の冒頭、「兵庫県知事選挙は外から見ているとよく分からない。憲法改正国民投票になった



青井美帆さんは「私たちの考える平和主義の中心は『人権』だ」と憲法13条の重要性を強調した=11月24日、長田区文化センター

時だけでなく、うそやデマが広げられる危険が大きいことだ。2013年以降、安保政策の「大転換」は憲法論から切り離されてきていると指摘し、内閣法制局人事、特定秘密保護法、NSC法、集団的自衛権行使容認の閣議決定、安保法制、「安保3文書」の閣議決定、経済安保法、経済秘密保護法、地方自治法改正……と憲法論を抜きにした安保政策が続いてきたと解説した。

また、22年の安保戦略では「国家としての力の発揮は国民の決意から始まる。……国民が我が国の安全保障政策に自発的かつ主体的に参画できる環境を政府が整えることが不可欠である」と、「ひとごと」から「自分ごと」への転換が目指さ

れているとした。「私たちが考える恒久平和主義の中心は『人権』だ」と、個人と国家の関係と憲法13条の重要性を青井さんは強調。さらに、「戦争被害受忍論」を許してはいけない。国



自作の創作落語でマイナ保険証の問題をおもしろく、わかりやすく訴えた都亭アロハさん=11月17日、神戸市垂水区

落語でマイナ保険証問題をアピール

憲法を生かす会・垂水

自公政権は、12月2日から現行健康保険証の廃止(新規・再発行がなく「ひとごと」から「自分ごと」への転換が目指さ

る。……国民が我が国の安全保障政策に自発的かつ主体的に参画できる環境を政府が整えることが不可欠である」と、「ひとごと」から「自分ごと」への転換が目指さ

【お詫び】前号(11月27日号)3面の「労働組合つぶしを許さない兵庫の会総会」の記事の中の写真が誤っていました。正しくは下の写真です。お詫び致します。【編集部】



地域ユニオン あちこちあれこれ (443)

2000年から始まった介護保険制度は3年ごとに改悪され、今年はその3年ごとの改定期の最終年度だった。政府の社

介護保険は年金から天引きのため負担感があまりなく関心が集まってい

し、街頭署名活動やパブコメへの意見提出、自治体への申し入れや議会への陳情などの取り組みを行

った。588筆を集めた。年2月22日に厚労大臣に

紙を送り400筆を集約した。それ以外にも独自の街頭行動で署名を集めた。集まった署名は全体で3755筆を数え、今

「4・21討論集会」にも

会保障審議会の議論では、①保険料の引き上げと利用者2割負担の改悪、②要介護1、2を介護保険から切り離して総合事業にすることが明らかにされている。一方、介護職員の賃金・処遇改善については触れられな

肌身を感じたことだ。県下で介護保険の改悪を許さないとする団体が賛同して昨年10月、「史上最悪の介護保険改定に反対する兵庫の会」を結成

オン、アイ女性会議ひょうご、安心と笑顔の社会保障ネットワーク、ろうがこう医療生協、憲法を生かす会・ひょうごネット、ひょうごユニオン、自治

問を行い100筆近くを集めた人もいた。街頭署名は尼崎、西宮、芦屋、宝塚、神戸市内各区で取り組まれた。ろうがこう医療生協は組合員に署名用

参加してもらった。こうして各議員とも接点があったことは今後に向けた大きな成果と言える。「兵庫の会」は、5月28日に開いた運営委員会で今回の運動の終了を確

今年も一年 ご愛顧ありがとうございました。

1月1日の能登半島地震、同地域を襲った豪雨災害など、自然の脅威を痛切に感じた1年でした。酷暑続きで農作物の作柄に大きな影響がありました。減反政策を半ば強制してきた国の農政によって、6月頃には米の在庫が減少し、8月~9月にはJAの倉庫からも店頭からも米が消えました。

新米が出れば解決するはずだった米不足ですが、各地の農協の倉庫には例年の半分くらいの量しか集まらず、すでに価格の再高騰が始まっています。米作り、食べていける農業、消費税等、生産者と庶民に負担を押し付ける農政に批判の声をあげなければと思います。

来年が、皆様にとって穏やかな一年になりますようお願い、年末のご挨拶といたします。

(有) ぴいぷる一同

(有) ぴいぷる
電話/ファックス 078(531)0135

おんなの目

淡路島に住む知り合いがいます。40代のお父さんとお母さん、7歳から15歳の4人のお子さん。一家6人の仲よし家族です。

このご家族の特徴的な点と言えば、聞きなれない「ホームスクーリング」。

ホーム（おうち）をスクール（学校）にしてるってことで、4人のお子さんは幼稚園、保育園に行かず、もちろん小学校、中学校にも基本的に行っていません。でも、別に公教育を否定している訳ではなく、3番目のお嬢さんは本人が望んだ段階で地元の小学校に通われています。

たくなるくらい自分を追い詰めていたこともあった」と、この度出版された人生初のフォトブックに書かれています。

そうです！今回のタイトル『スーパーぽんこつアホ母ちゃん参上』はアホ母ちゃん参上はとっくのお連れ合いの徳田梨花さんが出された本のタイトルなんです。

育、集団生活に送り込んでいいます。他に選択肢があることを知らない、もしくはうっすら知っている、人と違った道を進むことは不安の方が大きいです……。

でも、この本の中で梨花さんは、こう書かれています。

「私は、(公教育で)教育されていない子どもたちを育てていない子どもたち、の、もともとまっさらな状態を身近で感じ、見てきました。」

教育が悪いものだと決して思わないけれど、教育によって上塗りされていない、子どもたちの命の源泉から湧き出してくるそれは、私の想像をはるかに超えた素晴らしいものでした。」

『スーパーぽんこつアホ母ちゃん参上』

お父さんにあたる「とっくん」こと徳田水際(とくだみぎわ)さんが若い頃、アメリカでホームスクーリングの実践を見てきて、まだ子どももいないうちから「うちはホームスクーリングで育てよう」と決めてたそうです。

決めたのはお父さんなのに、いざ子どもができた頃は「仕事、仕事……」でほとんど家に居ない！とぼっちりは全てお母さんに!! 初めての子育てで、何の知識も経験もマニュアルもなく、4人の子どもをワンオペでホームスクーリング。

こう聞いただけで私ならギブアップです。奥さまの梨花さんも、「最初は本当にきつかった。死に

知らない人が読むと「えっ?…どんなお母ちゃん?」知ってる私が読んで、そこまで言う?って笑っちゃうタイトルです。でも、中を読むと本当に素敵で……。

当たり前のこととして、99%以上の親御さんが多分、子どもさんを義務教

育、集団生活に送り込んでいいます。他に選択肢があることを知らない、もしくはうっすら知っている、人と違った道を進むことは不安の方が大きいです……。

でも、この本の中で梨花さんは、こう書かれています。

「私は、(公教育で)教育されていない子どもたちを育てていない子どもたち、の、もともとまっさらな状態を身近で感じ、見てきました。」

教育が悪いものだと決して思わないけれど、教育によって上塗りされていない、子どもたちの命の源泉から湧き出してくるそれは、私の想像をはるかに超えた素晴らしいものでした。」

今までの悩み、苦しみ、不安も正直に、そしてトライ&エラーを繰り返しながら、子どもに育てられ、乗り越えて来て、今生きていて良かった、心から幸せ、子どもが好きでたまらない、毎日が楽しくて仕方がないという笑顔溢れる徳田ファミリーです。

楽しい写真がいっぱいで、胸を打つ言葉が散りばめられています。Kindleで777円で買うとスマホで繰り返し気軽に見れますし、出版社の社長、すみちゃんの後書きもとっても素敵です。

友人への応援という以上に、皆様にお勧めしたくてペンを取りました。どうぞ、よろしくお願ひします。

(アケビの会 Y.T)

『中国農村の現在——14億分の10億』のリアル 田原史起著／中公新書／1054円(税込み)

中国を論ずる場合、高層マンションの林立する大都市や経済発展の著しい沿海中心に語られることが多い。本書の存在を知って早速手に取った。評者にとっては新発見が多かった。最も手近な部類の日報新聞書評(3月23日)にはこうある。「農村は発展から取り残され、不満が渦巻いて崩壊寸前なのではないか。とかくネガティブなものに傾きがちなそんな中国観に、豊富な現地調査から反証を示す。分析の核となるのは農民独自のメンタリティー。都市住民と自分の待遇の差は比べないが、同じ集落の他人との平等や公平は強く求める。農民を地方の小都市に吸収していく政策が、現政権の盤石の支持基盤の形成につながっているとの指摘も興味深い。」

本書の目次は下記のとおり。

本棚

- ・まえがき
- ・序章 中国農民の軌跡
- ・第1章 市民との格差は問題か?——農民の思考様式
- ・第2章 農村はなぜ崩壊しないのか?——村落生活の仕組み
- ・第3章 なぜ村だけに競争選挙があるのか?——農村をめぐる政治
- ・第4章 中国農村調査はなぜ失敗するのか?——「官場」の論理
- ・第5章 農村は消滅するのか?——都市化政策と農村の変化
- ・終章 中国農村の未来

中国農村の現状を5点から分析

評者にとっての驚きの知見はまず序章にあった。中国では紀元前3世紀までに封建制は終わっているという。そして、秦、漢帝国の時代には中央集権的な「郡県制」が敷かれ、皇帝により派遣された官僚が農民を統治した。明の時代からは農民は県より上の政府に納税や徭役の形で直接に接することがなくなった(天は高く皇帝は遠い)。また、毛沢東の時代の後、人民公社は解体されるのだが、農村では土地所有権は集団に残し、使用権を各世帯

に非常に平等主義的に分配した。社会主義の思想は農村内部では平等・公平という形をとる。この集団内部の絶対的という発想は全国の農村に共通していると筆者は言う。丸山智雄氏の「場内村」に関するレポートを読むと、農村が農地の使用権を売却する際、農村の構成員(おそらく世帯)全体の同意が必要とされているらしいが、それにも連なる考え方がどうか。

第3章の標題を見て意外に思われる方も多

拳と祈り——袴田巖の生涯——

「被告人は無罪——」。袴田事件の再審公判で、静岡地裁の國井裁判長は2024年9月29日、確定死刑囚の袴田巖さんに無罪判決を言い渡した。

事件発生から58年、死刑確定から44年の歳月を経て、ようやく88歳の袴田さんは自由の身となった。本人の出廷はなく、代

わりに姉の秀子さんが弟の無罪判決を聞いた。日本の歴史上、過去に確定死刑囚が再審で無罪になったのは4件のみ。いずれも1980年代のことである。免田事件、財田川事件、松山事件、島田事件が挙げられる。

1966年6月30日未明、静岡県清水市(現・静岡市清水区)で、全焼

した民家の焼け跡から刃物で刺された一家4人の遺体が発見された。被害者は味噌製造会社の専務一家で、強盗殺人放火などの容疑で逮捕された。逮捕当日(8月18日)の取り調べは約13時間に及んだ。脆弱な証拠で強引に逮捕したため、翌日以降も連日過酷さを増した。拷問まがい(拷問そ



ものか)の取り調べは暴力を伴い、人格否定の罵声が浴びせられた。生命の危険を感じた袴田さんは9月6日、「自白」を

事件発生から1年2か月、「ごね味噌」の味噌工場内から5種類の衣類が見つかった。検察は犯行着衣をパジャマから「5点の衣類」に

変更し、裁判所はその主張を認め、有罪の最大の根拠にしてしまった。これが「捏造」された証拠として断定されるまで58年の歳月を費やした。裁判の経過については、1968年の静岡地裁の「死刑判決」に対し、弁護団、支援団体による再審請求を幾度となく行うも、司法の壁は厚く、地裁、高裁、最高裁の前にもことごとくはね返された。巖さんの長期にわたる拘留所生活を支えたのが、姉・秀子さんの献身的な働きにあることは、本作の随所に見られる。

浜松市内にマンションを建て、巖さんが安らかな生活を取り戻せる場所を確保する。

2014年に釈放され、

シネマランド

「次は石川さんの再審開始だ」(大坪)

先日11月24日、NHKスペシャルで「雪冤(せつえん)の歳月」秀子と巖 奪われた58年」が放映された。(大坪)

監督 井筒干晶 / 2024年 / 日本 / 159分

秀子さんと暮らすことで生活の質は格段に改善された。当初、一日中家の中を歩き回ることから、外出、散歩、さらには買い物ができるまでになった。

監督の笠井千晶さんは、2002年より秀子さんと親交を深め、20年以上プライベートでも撮影しながら交流を続ける。袴田さんに関連するテレビ番組を4本製作し、現在はフリーランスとして活躍。